



令和二年霜月

城北中だより

城北中学校教育目標	生徒数
○思いやりのある生徒	1年 156名
○真剣に学ぶ生徒	2年 176名
○健康な生徒	3年 156名
	特別支援学級 7名
	全校生徒数 495名

捧ぐ

校長 玉崎 芳行

合唱コンクールが幕を閉じた。今年は、COVID-19 対応を踏まえ、学年ごとの発表とした。開会セレモニーでは、実行委員会作成のリーフレットに寄せた合唱への想い、願いを伝えた。

校長室の窓から眺める景色は いつの間にか 紅の彩りが鮮やかになっている

我らが学び舎に 歌声が響くこの季節…

“合唱は いい”

合唱は人の声だから 人が心を合わせるから
心に感動をよび 感動が希望をはぐくむ

みんなで声を合わせる みんなで姿勢を合わせる
でも、一人ひとりへ視線が向き 一人ひとりが際立つ

発表までには様々なドラマがある その過程で絆が強くなる

誰かの思いのために 誰かの未来のために
自分を信じて 人を信じて 諦めないで 挫けないで

美しいハーモニーで 心に残る合唱コンクールにしよう

“合唱は いい” 心からそう感じる



一年生の伸びやかで瑞々しい歌声に驚いた。来年、再来年が楽しみで仕方がない。二年生の厚みと透明感が増した響きに唸った。昨年の学年合唱も立派だったが、その成長振りが嬉しかった。そして、圧巻だったのは三年生。どの学級も、指揮、伴奏、歌唱が一つになり、曲想を情感豊かに表現する。まるで、一編の詩、一枚の絵に触れているようできえあった。心震え、涙が込み上げてきた。最後の「ふるさと」…歌い終わった直後の“余韻”は、天から粉雪が舞い降りるかのごとく、静かに聴く者の心に重なった。私は、あの瞬間を忘れない。

歌の好きな人がいて、そうでない人がいる。歌の得意な人がいて、そうでない人がいる。

いろんな人がいての学級であり、学年であり、学校である。そんな、いろんな人が集い、「合唱」という、一つの芸術作品を、ゼロから紡ぎあげたみんなの努力と創意と協同に、そして、みんなの“城北プライド”に、心の底から敬意を捧ぐ。